



# 環境支援士

発行日 2021年9月30日

発行責任者

滋賀大学「環境学習支援士」会

第27号

理事長 橋田卓也

URL:<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~shienshi425/> Email:[shienshikai@yahoo.co.jp](mailto:shienshikai@yahoo.co.jp) 編集責任者 佐瀬章男

## § 2021年度WEB総会 §

理事長 橋田卓也

第13回定期総会は、新型コロナウイルスの感染拡大の中感染防止の為、初めてのWeb開催となりました。総会は、2021年4月18日13時より参加会員8名+委任状20名(会員36名中28名)で成立しました。総会で議長に前田氏、書記に橋本氏を選出しました。各担当者から2020年度活動報告、2021年度活動方針(案)、2020年度決算報告、2020年度会計監査報告(会計監査から、一般会計収入に助成金を含めて全体収入を記録してはどうかの意見がだされた)、2021年度予算(シンポジウム予算を全て計上した)、役員改選(原田さんが退任、下山氏が任期1年で選出された)がそれぞれ審議されて、提案通り全員一致で承認されました。2020年度は、コロナ禍で①総会後の研究発表会、②SDGs滋賀大学環境シンポジウム、③保育園への取り組みは全て中止となりました。私たちは、琵琶湖・淀川こども助成金を得て「うみのこ」学習支援、親子の体験学習に奮闘し、温暖化部会は定例会を8回実施しました。今年度もコロナの変異体による第5波が始まっており、決して楽観出来る状況はありません。本会は新会員を迎え、コロナ禍感染防止を守り、昨年の総括を活かして学校や地域にあって環境問題の解決要求に向け、皆で着実に取組を進めて行きましょう。新たに、セブン・イレブン記念財団の採択された助成金も活用しましょう。

## § 「うみのこ」出前講座 §

下山健二

2021年度も昨年同様新型コロナウイルスの影響で、フローティングスクールは1日に短縮され、滋賀県に於いても緊急事態宣言が発令されるなど予断を許さない状況が続いています。そのような中、小学校では、感染対策を十分に行い、児童、先生方が苦労しながら今回、上期で3校の「うみのこ出前学習」を行うことが出来ました。

3校は日野町立必佐小学校、近江八幡市立桐原小学校、及び金田小学校です。それぞれ「びわ湖の昔、今、これから」講義及びWSを行い、その報告を致します。

◇日野町立必佐小学校(6月22日)2クラス:62名

受け持ったクラスは、活発な児童が多く、ちょっとにぎやかすぎるくらいでしたが、積極的に質問し、びわ湖について非常に興味を持った印象でした。そして、びわ湖から少し離れている為か、外来種の問題や、固有種が多いことなど驚いていた様子でした。WSでは、身近な「水源の森、美しいブナ林」がダントツに多く、森を守ることが、びわ湖の水や景観を良くすることにつながるの感想が多かった。

◇近江八幡市立桐原小学校(7月13日)3クラス:97名

田園が広がる中の小学校で。コミュニティーセンターと併設し、出来て未だ5、6年の新しい校舎が斬新できれいな印象でした。びわ湖に近い立地の為か児童は、びわ湖になじんでいるようでしたが、びわ湖の昔こと、今の環境について初めて知った、更に知りたいなど、大いに興味を持ったようでした。また、食文化に興味を持った児童が多く、固有種の独特な食文化がこんなに沢山あることに驚いていた、広めたい、食べてみたい、など積極的に活動したい様子がうかがえた。

◇近江八幡市立金田小学校(9月9日)4クラス:145名

桐原小学校から2,3km彦根よりの小学校で、桐原小学校同様、びわ湖になじんでいるようでした。びわ湖に浮かぶ沖島の小学校とフローティングスクールを一緒に行うとのこと。

児童の講義の感想は、森林の水源を守り、びわ湖の景観を継続することで、水がきれいになり、魚(固有種)などの生物が増え、より良い環境になるのではないかと、又漁師さんを増やすことも食文化を維持する為に大事ではないかと、などであった。更に勉強して良かった、もっと知りたいなど出前学習の効果が感じられ頼もしく感じた。

以上3校の出前学習では、良く講義の内容を聞いてくれて、身近なびわ湖に更に興味を持ってくれた印象を受けた。



## § 金勝川わくわく環境塾 § ～7月31日(土)

佐瀬章男

2021年度の「わくわく環境塾」は昨年度に続き新型コロナの感染拡大で開催を躊躇しましたが、少しずつ収束に向かうと予測し募集を始めると、52組・145名の応募で7月15日に締切、栗東市役所の環境政策課で7月16日抽選会を実施し25組66名を当選としました。当日は心配した猛暑もなく、川の水量をマズマズでしたが、抽選会后と当日のキャンセルで、最終的に19組で小学生23名、保護者19名、幼児5名の計47名、当会が7名、栗東市から4名で総計58名の参加者でした。

今回は仮設テントとアクリル水槽の試験利用をしましたが、利用に当たっての問題点も把握しました。川底の土質が毎年変化しており、特に大きな石が増えてきているようで、参加者は川の中で歩きにくく今後継続していくためには、試験的な活動の確認が望ましいと思いました。

### ① アンケート結果、写真

子どもたちのアンケートはほとんどが、参加してよかった。来年も来たい。水の中での時間がもっと長かったらよかった。知らない生き物の名前がたくさん分かった。又保護者の感想では「普段は体験できない川の学習ができて感謝」「このような企画をこれからも継続してほしい」でした。

### ② 成果と課題

コロナウイルスの感染が心配される中での観察会でしたが、大きな問題もなく又天候にも恵まれ支援士会スタッフも7名で参加者をサポートし、なんとか終了しました。抽選後のキャンセルが6組も出て、抽選会で落選した応募者には申し訳ない結果でした。

### ③ 今後の方向

当選者のキャンセルが多く、落選者からの補充方法を今後の課題とし残したい。前日の会場準備は今後も継続が必要。



## § WEB 理事会 §

前田 雅彦

コロナ禍がまだまだ治まりません、そんな中滋賀大学も閉鎖されることがあり、われわれ支援士会もなかなか会議を開くことが難しくなっています。理事会は原則月1回開いていますが、しばらく開けない時期もありました。最近ではWEBツールを用いて会議を行っています。今、リモート会議のツールとして使われるのは、ZOOM、SKYPE、TEAMS などがあります。我々もこれらのツールを使って会議を試みしたのでその報告をいたします。まずZOOM、今一番良く使われているツールで、大変使いやすくできております。ほとんどの人が、すぐ使うことができる優れたものです、無料版では100人の人が、有料版では1000人の人が会議に参加することができます。ただし無料版では1回の会議は30分しか使うことはできません。SKYPEはWindows10に標準装備されているツールで、最大50人までの参加ができる。Skypeは無料で音声通話、ビデオ会議ができるツールで、インターネットに接続できる環境があれば、世界中と何時間でも無料でビデオ通話ができる。Teamsは複数人で様々な作業を効率よく行うためのツールで、1対1のチャットやグループチャット、音声通話、多人数が参加するビデオ会議、ファイルを利用した共同作業などをインターネットを通じて効率よく行うことができます。以上3つのツールを紹介しましたが、Zoomはどのパソコンでもつながることができましたが、Skype、Teamsは一部のパソコンで継げない例がありました。皆さん、以上のツールを使うと海外にいる家族、友人と無料で何時間もビデオで話すことができます。ぜひ活用しましょう。

例年金勝川(細川)で実施している「夏休み川の学校」を、今年度は田上地区の天神川でも実施する予定で、セブン-イレブン記念財団の助成金を申請して認可され8/21(土)に開催予定で準備開始。

ところがその後の現地調査で、天神川の河川改修で水の流れや川岸の状況が変わり、川に入っの学習には不相当であることが判明しました。その上集合場所に予定していた田上運動公園の集会場を調べると、屋内冷房機器の故障が判明し実施が危ぶまれる事態となりました。更に県内に新型コロナウイルスの感染防止で「まん延防止重点措置」が発令されて、検討の結果①開催日を夏休みからは外れるが10月30日(土)とする②学習地点を大戸川の石居橋下流とする、③河川での屋外学習のみのプログラムとする、の3点で実施することにしました。早速8月10日までに参加を申し込んできた応募者20家族60名に延期と集合地点の変更等を連絡、その結果11家族、児童20名、幼児と保護者を合わせて33名の参加者が決まりました。付近に参加者の車を止める駐車場も確保しました。当初予定していた8月21日は8月中旬の大雨で水位が上がり、河川域は立ち入り禁止でしたので、結果的には延期はよかったです。10月30日(土)のお天気が心配です。

自然相手の企画は何時もその直前まで気をもみますが、終わった後の充実感が楽しみです。



第12回滋賀大学環境学習支援士会シンポジウム計画の「内容とWeb準備」

コロナ禍でシンポジウム開催に当たり、Webセミナーの準備するためプロジェクトを発足した。神部先生のご尽力のもと大津サテライトプラザでZoomによるオンラインセミナーを2回実施し十分ではないが一定のめどが立った。今回のシンポジウムの背景は、①第11回滋賀大学環境シンポジウムの次回要望テーマは「琵琶湖の環境問題」が多かった。②2020年度のテーマは「温暖化から琵琶湖の生態系を考える」で開催を検討したが、コロナ禍で中止した。③滋賀県は、マザーレイク21第2期計画を終了し、びわ湖を取り巻く暮らしと自然環境に関わるゴールがトレードオフする中で、新たにマザーレイクゴールズ13項目の目標に温暖化を含むMLGsを発足した。④今、琵琶湖で何が最も大きな問題として生じているのか？中長期的に、私たちにどんな影響を与えるのかを下記内容でシンポジウムが開催できるように計画をしています。

○基調講演は、三田村緒佐武(元滋賀県立大学教授)びわ湖はびわ湖のものである視点で、講演「びわ湖の本来のあるべき姿について」。

○話題提供は、佐藤祐一(琵琶湖環境科学研究センター専門研究員)びわ湖の全層循環が、従来よりも不完全になったらどうなるのか全般的な立場で、講演「温暖化から琵琶湖の生態系を考える」

毎月の定例会では、地球温暖化に関連したテーマを取り上げて、各担当者がそのテーマについての話題提供を行い、会員との自由闊達な議論を行い、問題がどこに有るのか、解決策はどうすれば良い

のかの議論を行った。このことを通じて、地球温暖化の今日的課題を把握すると同時に、議論を通じて部員の老化防止につなげたいと考えている。緩和策と適応策のアプローチは今までと同じである。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で、会合が思うように出来なかった。

### 【緩和策】 ○「水素エネルギーについて」(2021年7月)

菅首相の「2050年カーボンニュートラル宣言」が行われてから水素エネルギーが大きく取り上げられている。この水素エネルギーについて、日本での政策、環境先進国のドイツでの取り組み、今後の技術革新について議論を深めた。水素の起源については、電気分解由来の「グリーン水素」が主体になることを確認した。又、水素の供給量、コストが今後の大きな課題である事も認識した。

### 【適応策】 ○「国立環境研究所公開シンポジウム参加」(2021年8月)

国立環境研究所のオンライン配信による、シンポジウムに参加。テーマは「気候変動適応ってなにをするの？」である。

気候変動適応の検討手法(モデル化とシミュレーション)の説明、それを基にした気候変動の予測、適応策の評価が主な内容であった。大事な事は、環境変化を「わがこと化」することである。

### ○「福島第一原発事故後の放射性セシウムの魚への蓄積」について(6月)

原発事故後9年も経過しても川や湖に生息している淡水魚の放射セシウムは基準値を超えている。この現象を移行係数を用いることで説明。

長期に亘っての影響、今後の廃炉作業についての技術とその技術の引継ぎについて議論を行った。

## §「うみのこ」出前講座について§ 担当:橋田、前田、下山、佐瀬、吉川、原田、成子

新型コロナウイルスの感染状況の中で、今年度も広報活動の結果既に大石、必佐、桐原、金田の4校が完了し、以下の通り予定も決まっています。「うみのこ」の運航は今年も日帰り学習となりました。

番号	学校名	実施日・希望日	組数と児童数	担当者
3	大津市田上小学校	10月以降調整必要	2クラス、64名	最低6名
6	近江八幡市金田小学校	未定 3学期?	4クラス145名	
7	栗東市治田小学校	10/6, 3~4時限	4クラス115名	橋田・下山・前田・佐瀬
8	米原市坂田小学校	10/1,1~6時限	3クラス76名	橋田・下山・佐瀬
9	彦根市鳥居本小学校	11/4,11/5,11/9,3~4時限	1クラス21名	
10	近江兄弟社小学校	12/17,12/20,12/16,3・4時限	1クラス・13名	
11	彦根市旭森小学校	10/26,2~4時限	5クラス155名	橋田・下山・前田・佐瀬・(...)
12	長浜市小谷小学校	11/2,11/4,11/5,1-6時限	1クラス・23名	
13	近江八幡市八幡小学校	2/1,(3-4・5-6時限)2/3,(1-2時限)	3クラス・109名	
14	甲賀市油日小学校	10/12, 5-6時限	1クラス・24名	佐瀬
15	彦根市稲枝東小学校	10/15,3・4時限	2クラス・66名	橋田・佐瀬
16	湖南市石部南小学校	1/12,1/13,1/19, 3・4時限	2クラス・44名	

### 編集後記

新型コロナウイルスの感染は、今年になっても収束の兆しが見えず、第5波はこれ迄で最大の山でした。

今年も各種活動が制限されて、WEB会議が運営の主体となり、会員間の意見調整に苦労しました。

日本のコロナ対策は世界に比較して、どうだったのでしょうか。来年にはその評価が出るでしょう。

涼しくなってきましたが、これからも油断せずに、健康第一でご安全に元気に、新年をお迎え下さい

※H/Pアドレスが変わりました。 URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~shienshi425/>

滋賀大学「環境学習支援士」会 〒520-0862 大津市平津 2-5-1(滋賀大学教育学部内) TEL/FAX:077-537-7821